

令和元年度第1回北区まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事録

日 時：令和元年7月29日（月）午後6時30分～

場 所：北とぴあ 14階カナリアホール

1 開 会

2 委員委嘱（委嘱状交付）

3 議 題

- （1）北区の人口の現状について
- （2）北区版総合戦略 重要業績評価指標（K P I）の平成30年度実績について
- （3）北区まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について
- （4）その他

4 閉 会

| | | |
|-----|---------|---------|
| 出席者 | 加藤 久和会長 | 遠藤 薫委員 |
| | 足立賢一郎委員 | 池本 洋一委員 |
| | 大塚 麻子委員 | 工藤 雅彦委員 |
| | 関口 努委員 | 永沢 映委員 |
| | 内海千津子委員 | 柴田恵理子委員 |

○区

それでは、初めに政策経営部長の中嶋よりご挨拶を申し上げます。

○区

皆さん、こんばんは。どうぞよろしくお願ひいたします。北区の政策経営部長の中嶋と申します。

本日、お忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございます。また、昨年から委員を引き続きお受けいただいている方、また今回新たに推進会議の委員をお引き受けいただいた方、どうもありがとうございます。

現在の北区でございますが、人口が今増加を続けております。そうした中で、昨年25年ぶりに35万人を超えたということに関して、北区長、非常に喜んでございます。そういった中で、区長を初め、このことに関してすごく発信をしてきたといった経緯がございます。ただ、よく分析してみると、やはり人口増の要因というのは限られた部分というのがあるのかなど。転入超過であったり、外国人人口の増加、そういったものに支えられた中で、出生率の低下ですとか、やはり若い世代の絶対的な数は少ない、それから将来的に見れば人口減少の社会を迎えていくというふうに、人口問題というのは非常に大きな課題だと思っておりますし、すぐに何かができるというものではないと思っております。そうした中で、北区としては今できることを一歩ずつやってみりたいと考えているところです。

また、今年度、北区の基本計画の改定を行ってまいります。そうした部分で、ぜひ委員の皆様には、総合戦略の目標、こういったものに向けてこんな事業をやったらいいんじゃないかと、そういった部分をいろいろご指摘いただければ、それが当然、総合戦略はもちろんのこと、基本計画の中でも生かしていくことができると考えてございます。そうした委員会の運営がしていければと思っております。どうかよろしくお願ひいたします。

○区

ありがとうございました。

それでは、続きまして、委員の委嘱についてお伝えをさせていただきます。

委員の委嘱につきましては、昨年度、全委員の方から再任のご了承をいただきました。ありがとうございます。時間の関係で皆様の席上に委嘱状を配付させていただいておりますので、ご確認をいただければと存じます。

任期につきましては、本日、令和元年7月29日より令和3年7月28日までの2年間となります。よろしくお願ひいたします。

委員の委嘱についてのご連絡は以上になります。

なお、本日でございますけれども、岩崎委員、越野委員から欠席のご連絡をいただいております。今井委員からは特にご連絡をいただいておりますので、遅れていらっしゃるかと思ひます。

現在、13名の委員の方の中で10名の方のご出席をいただいております。北区まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議設置要綱第6条第2項には、委員の半数以上の

出席がなければ会議を開くことができないと定めておりますが、以上のとおり、本日は定足数を満たしておりますことをご報告をさせていただきます。

では、続きまして、正副会長の互選に移りたいと思います。

本推進会議の設置要綱第5条では、正副会長につきましては委員の皆様の互選ということになっていますが、いかがいたしましょうか。もしよろしければ事務局の案としては、引き続き加藤委員に会長を務めていただきたいと思いますと考えております。皆様いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、加藤委員に会長をお願いをさせていただきます。

加藤会長、副会長はいかがいたしましょうか。

○会長

もしよろしければ引き続き東京家政大学教授の岩崎委員をお願いをしたいと思っております。お認めいただけますでしょうか。

それでは、拍手をもってお認めいただければと思います

ありがとうございます。

○区

ありがとうございます。

それでは、会長を加藤委員に、副会長を岩崎委員をお願いしたいと存じます。

加藤会長よりご挨拶をいただければと存じます。よろしく願いいたします。

○会長

ただいま会長にご選任いただきました加藤です。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

皆さんの顔を見ていると1年ぶりで何か懐かしいという思いになってくるんですけども、今日も暑い中、どうもありがとうございます。

先ほど部長からもお話がありましたように、総合戦略については、北区の基本計画の改定とあわせて、手を取り携えて進めていかなければいけないと思っております。特に地方創生の関係からすると、今年の年末には、また新たな総合計画の策定がきて、それがまた自治体のほうにおりてくるというふうに伺っておりますので、そこで新たなといいますか、今の北区の総合戦略をどのような形でさらに拡充していくかということが課題になってくるのではないかと思います。

先ほど部長からもお話がありました、北区も確かに人口は増えているのですが、他区を見ますともっと増えているところがあったり、あるいはいろんな状況を見てみますと、まだまだ北区の人口の増加の動向というのが十分であるのかということも考えると、難しいところがあるのではないかと思います。それから、先ほど同じことをまた繰り返すことになるのですが、外国人の方が増えていることも特徴だと思います。今後の新たな総合戦略の中では、そういったことも考えていかなければいけないのではないかと思います。

また2年間、いろいろとお世話になりますが、どうぞよろしく願いいたします。

○区

ありがとうございます。

それでは、ここからの進行は会長にお願いしたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○会長

本日も委員の皆さんに活発にご議論をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

また、今回より工藤委員に新たにご参加をいただいております。ここで工藤委員から簡単に結構でございますが、自己紹介をお願いできればと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○委員

どうも皆さん、こんばんは。ハローワーク王子から参りました工藤でございます。どうぞよろしく願いいたします。

前任の所長が1年で異動してしまった関係で、本年の4月から赴任をしております。皆さんの活発なご議論の中に入っていけるかどうか心配ではございますけれども、精一杯務めさせていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○会長

ありがとうございました。

それでは、事務局より配付資料の確認をお願いいたします。

○区

事前に送付いたしました資料が全部で11点ございます。確認をさせていただきます。まず最初に、本日の次第でございます。そして資料1番といたしまして、委員の皆様の名簿になります。資料2番といたしまして、北区の人口の現状についてでございます。次に、資料3番といたしまして、北区版総合戦略重要業績評価指標の平成30年度実績一覧でございます。次に、資料4-1といたしまして、北区まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定についてでございます。次に、資料4-2といたしまして、北区版総合戦略改定スケジュールでございます。そして、資料4-3といたしまして、北区人口ビジョン・北区版総合戦略の全体像でございます。そして次に、資料4-4といたしまして、北区版総合戦略、平成27年度策定版・平成28年度改定版項目比較でございます。そして次が資料4-5、北区人口ビジョンの冊子でございます。資料4-6といたしまして、北区まち・ひと・しごと創生総合戦略の冊子となっております。そして最後になりますが、資料5-1といたしまして、まち・ひと・しごと創生基本方針2019の概要版でございます。そして資料5-2といたしまして、まち・ひと・しごと創生基本方

針2019についてでございます。

以上おそろいでございますでしょうか。

もし不足等がございましたらお申し付けいただけたらと思います。以上です。

○会長

ありがとうございました。

それでは、早速、本日の議題に入りたいと思います。

本日の議題は、最初に北区の人口の現状について、2番目に北区まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について、そして3番目に意見交換ということになります。

なお、本日も委員の皆様それぞれの立場からご意見をいただきたいと思っておりますので、北区まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定についての議題については、順番に一人5分程度でご意見をお聞かせいただきたいと考えております。

それでは、まず、北区の人口の現状について、事務局より資料の説明をお願いいたします。

○区

それでは、資料2番に基づきまして、北区の人口等の現状についてご説明させていただきます。

こちらは毎回この会議でお示しをさせていただいておりますが、北区人口ビジョンの中で新たなデータが入手できた項目について最新のデータを追記してお示しをしたというものでございます。

資料2番をご覧ください。まず最初のページです。図表3と図表4をお示ししておりますが、ともに北区の住民基本台帳によります2018年のデータを追加したものとなっております。

まず、上の図表3番でございますが、出生数及び死亡数の推移となっております。死亡数は2017年のところまで見ていただきますと、ほぼ横ばいが続いておりましたが、2018年は350名ほど増加をしているという状況でございます。この状況ですけれども、国全体におきましても同様の傾向でありまして、死亡者数、死亡率ともに増加上昇をしているということで、北区もそのような動きになっているというところでございます。また、出生数でございますが、2011年以降、2016年まで上昇をしておりましたけれども、2018年は前年に続き減少をしているという状況になってございます。

その下の表、図表4番をご覧ください。こちらは転入者数及び転出者数の推移となっております。前年までの動きと同様に転入超過の状態が続いているというものでございます。

次に、2ページをご覧ください。こちらは図表5番です。自然増減及び社会増減についてでございます。2017年から2018年の変化を見ますと、社会増減の増加が大きくなっておりまして、全体の人口増加にもつながっていると思われまして。自然増減につきましても、前のページにもありましたように、死亡数が増加し出生数が減少したということもありまして、マイナスの幅は2017年よりも大きくなってございます。

次に、3ページをご覧ください。こちらは図表6番でございまして、合計特殊出生率の推移でございます。国、東京都、特別区を見ましても、2016年から2017年は若干の減少になっているということでございます。こうした中で、北区におきましても、2016年は1.26であったものが、2017年には1.21と下がっておりまして、特別区の平均値が1.20でございますけれども、平均値に近づいているというような状況でございます。

さらに、参考のところでお示しをしておりますが、2018年、全国で1.42ということで、やはりこちらも2017年よりも下回っているということで、東京都におきましても同じような動きになっております。2018年の北区のデータは11月ごろ明らかになる予定でございます。

次に、4ページをご覧ください。図表11番ということで、転入前の住所地別割合、2017年が下段で2018年が上段になっておりますが、こちらは大きな変化は見られないと言えるかと思えます。

また、5ページをご覧ください。図表12番で転出後の住所地別割合ということでございまして、こちらも前年と比較し大きな変化はないというような状況になってございます。

次に、6ページをご覧ください。図表13番、外国人人口の推移です。こちら先ほどから少しお話に出ておりましたけれども、北区においてここ数年、非常に外国人人口が増加をしているというような状況になってございます。その勢いが非常に強まっているのがこのグラフでお分かりいただけるかと思えます。

参考のところにありますが、「平成31年」となっておりますが、「令和元年の7月1日現在」と修正をいただきたいと思えますが、この時点で外国人人口2万2,921人となっております。総人口に占める割合も6.4%を超えているというような状況になってございます。

次に、7ページをご覧ください。こちらは産業関係のデータになります。図表21番、雇用力と稼ぐ力の推移でございます。雇用力のある産業とは、従業者数の多い産業でありまして、グラフの上側に位置をしているものになります。また、稼ぐ力のある産業というのは、従業者比率がほかの地域に比べて高い産業でございまして、他の地域より相対的に稼ぐ力を持っている産業というように言えるかと思えます。雇用力のある産業、稼ぐ力のある産業、こちらも北区がどの産業に強みを持っているかというのを把握するためのデータでございます。今回は平成26年と平成28年の経済センサスをもとに比較をしたものでございますが、前回のデータの比較と比べても大きな変化はないというような状況になってございます。

資料2についての説明は以上です。

○会長

ありがとうございました。

それでは、この件につきまして、ご質問等ございますでしょうか。

なお、ご意見等につきましては、次の次第3番の総合戦略の改定の後に皆様方からご意見をいただきたいと思っておりますので、まずは北区の人口についてのご質問等ござ

いましたら、まずお尋ねいただければと思います。いかがでしょうか。

委員、よろしくお願いします。

○委員

6 ページの外国人人口の推移は顕著に増え続けていますけども、他区と比べてというところまでは分からないですか。北区だけの特徴とは思えないですけども。

○区

2 3 区を見てみますと、やはり伸びているところが多いというように認識をしております。ただ、増加率というところで、他区との比較の数字がありませんけれども、北区の増加率は割と高いほうにいないかというように認識しているところです。

○委員

これはかなり高いと思うんですけども、どのような方々かというのは分かりますか。

○会長

ご参考までなのですが、今、外国人が増えている中で、ほとんどが東京都内が増えています、どちらかというとも都心の南の方と、それから北の方が増えているみたいなので、その意味で言うと1 番ではないですが相当高く増えているところではないかと。

○委員

身近に感じられますか。

○委員

例えば子どもの学校の同級生とか、あとはお父さんないしはお母さんという感じでは、割と身近ですかね。

○区

国籍が一番多いのはやはり中国です。そして次が韓国、朝鮮となっております。あと次がベトナム、ネパール、バングラデシュとなっております。

○会長

ほかにどなたかご質問はございますか。

○委員

4 ページの図表 1 1 番、転入前の住所地別割合というところで、緑の棒グラフなんですけど、1 5 歳から 1 9 歳、それから 2 0 歳から 2 4 歳、これが突出して多いのですが、これは 1 都 3 県以外なので、近隣から転入してきている人じゃないということは、もしかして外国人が入っているのでしょうか。

○区

ありがとうございます。外国人も含まれているものです。

外国人だけで伸びているかどうかというのは、図表11番だけでは言えないかと思うのですが、確かに外国人人口の中でも生産年齢の伸びは非常に高くなっているということになりますので、この年代に関してもそれは言えるかと思えます。

○会長

よろしいですか。

委員、お願いします。

○委員

例えば東北の震災被害地から若い人が来ているとか、そういったこととかはありますか。働きに出てきている人が増えているとか、特に東北の3県を調べたものというのを見たことがなくて、働き口がなくて結構出てきているかと。私の妹が宮城の東松島に住んでいまして、働き口がなくなって、オリンピック需要もあって、若い人とか企業がこちらに来ているという話を聞いたので、それもまた次回でも構いませんので、もし何かそういうのがあったら教えていただければと思いました。以上です。

○区

バックデータを見てみると、どこからの動きというのは分かるかと思うのですが、2017年とか2018年という今の時点で震災の影響かどうかというところまで追えるかどうかは確認をさせていただきたいと思えます。

○会長

よろしいでしょうか。他にもしご質問がございましたら。

私から一つのお願いなんですけども、昔からなんですけども、転出、転入の理由が知りたいというのがあって、なかなか住民基本台帳移動報告だけだと、なかなか理由がとれないんですけども、例えば窓口でヒアリングしてみるとか、多分、埼玉県の南部の市と、それから北区、足立区あたりで、あるいは豊島区あたりでいろいろと動いていると思うんですけど、どういう層がどういう形で入ってきてどうなっているのかということは、数字だけだと分からないという感じがするので、ぜひ今後のこととしてお願いできればと思います。

○区

ありがとうございます。前にもご指摘いただいたかなと思っていますが、転出入の理由やきっかけを追ってみたいと思い、調査をしたこともありました。ただ、やはりかなり数がなかなかとれないというところもあり、十分なデータと言えるかどうかというところはあるのですが、転出入者の調査分析報告書といったものもまとめておりますので、

そのあたりからご紹介できるものを少し整理してみたいと思っております。

○会長

ありがとうございます。

ほかにどなたかご質問はございますでしょうか。

よろしいでしょうか、ご質問があれば、最後のところのご意見をいただくところで、またお願いできればと思います。

それでは、次に、北区版総合戦略重要業績評価指標、K P I の平成30年度実績について、事務局よりご説明をお願いいたします。

○区

では、資料3番をご覧ください。こちらは重要業績評価指標の平成30年度の実績一覧になっております。

初めに、表の見方をご説明させていただきます。現状値のところを見ていただきますと、平成27年度末、28年度、29年度、30年度、それぞれ末時点での現状値というものがお示しをさせていただいております、これが実績というものになります。また、一番右側の目標値の欄の隣になりますけれども、これは対前年度比になっております、29年度から30年度の変化の状況をお示ししているというものになります。そして一番右側の目標値でございますけれども、総合戦略を策定したとき、または改定した時点での目標値として定めたものになっております。

では、こちら資料3番につきましては、主なもののみをご説明をさせていただきたいと思っております。まず、1ページでございます。基本目標I番というところですが、「子育てするなら北区が一番」といったものをより実感できるようにするという目標でございます。数値目標の2つ目のところを見ていただきますと、子育てファミリー層、若年層の人口というところがございまして、29年度末から30年度末のところ見ていただきますと、2,266人の増加というようになってございます。また施策の方向(2)番のところ、子育てしながら働く世帯の支援というところの1行目になりますが、保育所の待機児童数をお示ししております。保育所の待機児童の解消に向けては、北区も力を入れて取り組んでいるところではあるのですが、平成30年度末の実績のところ見ていただきますと、119人ということになってございまして、前年度と比べて77人の増加になってしまったという結果が出ております。

1ページにつきましては以上で、次、2ページをご覧ください。こちらは基本目標のII番、「女性」・「若者」・「高齢者」の活躍を応援するのが数値目標になります。女性、若者、高齢者それぞれの就業率がありますけれども、こちらにつきましては国勢調査の結果から算出をしている数値のため、現時点で更新するものがないということになってございまして、平成27年の10月の国勢調査の数字までが出ております。また、昨年度のこの会議の場でもご報告をさせていただきましたが、総務省の平成29年の就業構造基本調査の結果によりますと、子育て世代の有業率というのが全ての年齢層で上昇しており、25歳から39歳の女性が働いている割合というのが75.7%と5.9ポ

イント高まり、過去最高を更新しております。平成29年の調査なので若干データが古いですが、ご紹介をさせていただきました。また、その下になります、65歳の健康寿命でございます。こちらにつきましては、昨年度と比べまして男性、女性ともに0.03歳プラスされているということになっております。

次に、3ページをご覧ください。次は基本目標Ⅲ番になります。「創造へのチャレンジ」によって地域産業の活性化を図るといったものについてです。こちらは上から2つ目のところになりますけれども、創業支援計画による創業者数がございますけれども、こちらは113人、前年度比で増加をしているということでございます。目標値のところ平成31年度末で500人というようになっておりますので、目標値の達成といったところも大分近づいてきたかなというように言えるかと思えます。

次に、4ページ、ご覧ください。こちらは基本目標Ⅳ番、まちづくりの一層の推進を図り、北区の個性や魅力を発信するといったものでございます。こちらにつきましては、数値目標の5つ目のところになりますけれども、住みたい街ランキングというものでございまして、こちらは平成29年度末のときは26位というようになっておりましたが、平成30年度末では36位ということで、マイナス10位ということで、下がってしまったという結果になっております。

資料3につきましては、非常に雑駁ではございますが、以上でございます。

○会長

ありがとうございました。

また、この件について、ご意見等は後でいただきたいと思うのですが、まずはこの内容につきましてご質問等ございますでしょうか。

お願いします。

○委員

2ページのところよろしいでしょうか。女性が活躍する環境づくりということで、キャリアアップ、起業セミナー参加者が増えているということ、それから個別相談受けた件数も増えているということですが、私ども創業セミナーも北区、足立区両区にまたがってということで私ども約5年ほど前からやっているんですけど、女性の参加者が大体各会とも3分の1ぐらいではあるんですけど、なかなか起業に実際つながるというところまで、ほかの金融機関さんでということもあるのかもしれませんが、そういう支援としては3分の1ほど女性。ただ、なかなか起業の絶対数の女性が起こす割合というのはかなり低い状況なんですけど、2番の起業支援セミナー受講者から個別相談を受けた件数というのは、一応プラスなんですけど、実際に起業をされた女性というデータはあるんですか、割合のようなものは、セミナー受けた中から。もしありましたら教えていただければありがたいかなと思っています。

○区

申し訳ございません。こちら起業につながった件数というのが今実績がないような状

況にはなっております。ただ、その下の女性再就職支援事業による再就職者数というのはとっております。

○委員

それは一般企業様への。

○区

そうですね。

起業につながった件数についても追うことは可能かと思っておりますので、今のご指摘踏まえて数値は把握をしておきたいかと思っております。ありがとうございます。

○会長

よろしいでしょうか。

委員、お願いします。

○委員

4 ページの住みたい街ランキングということで、単純に26位から36位に下がったということですね。ランクが下がったことの分析みたいなものは何かないのでしょうか。というのは、戦略ということであれば、上がったか下がったかということは結構重要なのかなという気はしているのですが、漠然としているので、答えが出るかどうか分からないです。この辺は結構必要なのかなという気はしています。

○区

もし委員、何かありましたら補足お願いできればと思いますが、確かにどうして下がってしまったかというところの分析というところではなかなか十分ではないところがあります。実はこういうデータっていろんなものがありまして、こういうふうに住みたい街ランキングに関しましてはマイナス10位という結果にはなっているのですが、実はもう一つ本当に住みやすい街ランキング2019大賞というのがありまして、それによりますと、昨年の末に発表されたのですが、赤羽が第1位になっているというような状況もあります。少しデータの見方といいますか、評価の指標とかによってもランクが変わってくる部分はあるのかなという受けとめはしているところではあります。以上です。

○委員

住みたい街ランキングを発表しているリクルートの池本と申しますが、大きなランキング全体の傾向で申し上げますと、去年、今年のランキングの特徴、全体の特徴ということでお話をさせていただきますと、まず、千代田区とか港区とか文京区といった区が

順位は下がっていませんが、とても点数を落としました。これがどういうことかという
と、マンションの価格を中心に非常に物件価格が高騰化していった、なかなかやはり住
むことが困難になってきたというふうなことがフリーコメント等を見る限りにおいてあ
らわれているということがありました。それが一つです。

もう一つ、逆に行政として伸びたところというのがどこがあるかということ、三鷹市と
か武蔵野市とか、あと今年で言うると特に話題になったのはさいたま市の浦和とか大宮、
大宮が住みたい街ランキングで4位になり、浦和が確か8位になり、いずれも過去最高
位。あと流山市とかもランキングが上がっていたり、つくばエクスプレスの駅が軒並み
ランキングを上げています。これは何かということ、郊外の中で、いわゆる中核駅であり
ということのランキングは伸びているということです。点数を大きく落とした文京区
とか千代田区、中央区のようなところと、大きく伸ばした浦和、大宮を要するさいたま
市の間に北区というのは位置しております。ですから人口の流出入の分析にもつながる
ことがあるのかもしれないけれども、想定するには、さいたま市等への人口流出みた
いなものが起こっていないかどうか。つまり、あるいはライバルであるもう少し奥のさ
いたま市と比べたときに魅力がどのように皆さんに映っているのかということころは、恐
らく見ていただくべきポイントなのかなということがあります。

それと、この住みたい街ランキングの順位が変動するもう一つの大きな理由は、メデ
ィアに取り上げられているかどうかなんです。非常に何かおもしろいトピックスがあ
って、メディアで多く取り上げられていくとランキングは上がっていくと。赤羽がラン
キングを上げていった一番大きな理由は、やはりメディアでの赤羽というものがすごく
おもしろいまちだねということの評価されていったということがあると思います。ただ、
何となく昨今、私もテレビを見ていて感じるのは、もうメディアが赤羽に飽きていると
いう感じはします。ですから、このまま同じような赤羽の雰囲気の出出しをしていっ
たとしても、もうメディアはそんなに取上げないだろうというふうな観点があります
ので、また新たな打ち出しが必要になってきているということなのではないかなという
のが私の印象でございます。また詳細、分析できましたらご報告をします。

○会長

ありがとうございました。よろしいでしょうか。

ほかにこのK P Iに関するご質問等ございますでしょうか。

委員、お願いします。

○委員

表の見方を教えていただきたいですけど、1ページの施策の方向(2)子育てしなが
ら働く世帯の支援ということで、保育所待機児童数が119で目標ゼロですから、これ
は保育所が足りないという意味でいいということですね。学童クラブの定員が2,98
0で目標2,750ってことは、もう定員数は確保できている、施設は増やさなくても
大丈夫という意味なんではないでしょうか。

○区

ありがとうございます。保育所の待機児童数は増えてしまったということになっています。

学童クラブの定員数ですけれども、こちらは確保ができた数ということになっておりまして、目標値なんですけれども、2,750人というようになっておりますが、こちらが総合戦略を改定したときの目標値ということで設定をしたものでございます。それに対しては、2,750人と2,980人というのを比較しますと、確かに目標は達成しているというように言えるんですけども、実は保育園とともに学童クラブのニーズというのが高まってきておりまして、現状、十分足りているというようには言えないような状況にはなっております。ですので、こちらの目標値というのがあくまでも数年前にちょっと設定したものであったということでございます。以上です。

○会長

よろしいでしょうか。

もしかしたら、KPIはですね、こちらにいらっしゃる委員の方々は分かると思うのですが、一般の方が見たときに、よくなっているのか悪くなっているのか、何か丸でもバツでも三角でも二重丸でも、入れていただくと分かりやすくなるかもしれないですね。少しご検討いただければと思います。

○委員

今のご意見に関連するかと思うのですが、1ページの基本目標Iの上から2行目のところですが、子育てファミリー層・若年層の人口というところで、対前年度比の増減でプラス2,266ということで、順調に伸びているというご説明だったかと思うのですが、目標値を見ますと14万6,000人ということで、かなり低い数字になっているのは、先ほどと同じで少し前の推計に基づく目標値ということになるのでしょうか。

○区

少し前に推計をしたものに基づいての設定だったということで、ずれが生じているというようなところはあります。

○会長

ありがとうございます。他にもご質問があるかと思うのですが、時間の関係もございますので、後で皆様方からご意見いただくときに、またあわせて質問もいただければというふうに思います。

それでは、次に、北区まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定についてということで、事務局から説明をお願いいたします。

なお、事務局からのご説明の後に、お一人様5分程度でございますが、ご意見をいただきたいというふうに考えております。

それでは、事務局のほうからご説明のほうよろしくをお願いいたします。

○区

先ほどご質問いただきました転出入の理由というお話について、少しだけご紹介させていただきます

転出入の決め手となった利点ということでありまして、まず、転入者のところを見ますと、やはり通勤通学への交通の便がよいというのが一番です。その次に家賃、住宅価格が適当というものがあります。その次に都心へのアクセスがよいといったような形での理由になっております。転出者に関しましても通勤・通学への交通の便、また、家賃、住宅価格が適当、住宅の条件がよい、そういった理由で転出をしているということがありまして、似たような理由で転出・転入ともに動いているといったような状況になってきておりまして、そこから何か新しいものがなかなか見えてくるというのは、もう少し深掘りが必要かなというような認識をしたところでございます。

○会長

ありがとうございます。

それでは、資料のほう説明をお願いいたします。

○区

では、資料4番の説明をさせていただきたいと思っております。北区版総合戦略の改定についてでございます。

まず、資料4-1の1番のところ、改定理由でございます。まず(1)番、1つ目といたしまして、今年度は北区の長期総合計画であります基本計画2015の改定を行っております。そして、2つ目でございますが、北区番総合戦略の計画期間が、現在のものがございますけれども、平成27年度を初年度とする5カ年の計画でありましたので、今年度が最終年になっているということがあります。そして、3つ目でございますが、国におきましてもまち・ひと・しごと創生総合戦略2018の改定版におきまして、2019年度が第1期の総合戦略の最終年に当たりまして、第2期を2020年度から2024年度までの5年間として策定をしていくというようなことが表明されました。こうした3つの理由から、北区におきましても総合戦略を改定してまいりたいと考えているところでございます。

次に、2番で改定の流れでございます。こちらは資料4-1とあわせて4-2をご覧ください。資料4-2には基本計画と総合戦略改定のスケジュールというものをあわせてお示しをしておりますので、4-1と4-2両方ご覧いただきながらお聞きいただけたらと思っております。

まず、4-1を見ていただきまして、改定の流れです。(1)番といたしまして、まず、本日、第1回目の総合戦略推進会議におきまして、北区番総合戦略の改定に基づき、改定にあたっての委員の皆様からご意見をいただくということでございます。そして(2)番といたしまして、本日いただきました意見ですとか、北区の基本計画の案、国の総合戦略などを踏まえまして、事務局におきまして北区番総合戦略の案といったもの

を取りまとめてまいります。そして（３）番のところになりますが、来年年明けに開催予定の第２回目のこの会議の場におきまして、総合戦略改定版の案をお示しさせていただきまして、委員の皆様からご意見をいただきたいと思っております。そして（４）番になりますけれども、いただいた委員の皆様の意見でございますとか、基本計画もおおむねその時期になると固まってくると思っておりますので、そうしたものも踏まえまして、総合戦略を策定していきたいというようになります。こちらが改定の流れについてでございます。それを時系列でお示ししたのが４－２ということになっております。

次に、資料４－１、３番の改定の方法でございます。まず、（１）番といたしまして、総合戦略の基礎となります人口ビジョンについてでございますが、こちらにつきましましては、改定は行わないといった方針で取り組んでまいりたいと思っております。理由といたしましては、人口ビジョンについては２０６０年という４０年以上先を見据えての人口の目標等を掲げているため、策定から５年は経過をしたものの、データ等の更新はこれまで同様行いますけれども、目指すべき将来の目標でありますとか、将来人口の推計などにつきましまして改定は行わない方針で取り組んでまいりたいと思っております。

次、（２）番でございます。北区版総合戦略に基本目標といったものを設定しておりますが、こちらにつきましても変更しない予定でございます。

ここで資料４－３をごらんいただきたいと思っております。こちら資料４－３は、北区の人口ビジョンと総合戦略の全体像をお示ししたものでございます。一番左側にありますのが北区人口ビジョンに掲げる目指すべき将来の方向といったものでございます。その囲みの右側が総合戦略の内容になってございます。総合戦略の基本目標というのを５つ掲げてございますが、この基本目標につきましましては、今回は改定をせず継続をしていきたいといったものでございます。

次に、資料４－１を見ていただきますと、３の（４）のところでございますが、この基本目標に沿った事業を今回改定いたします基本計画の中から抽出しまして、総合戦略に反映をしていくというように考えてございます。また、基本計画の事業でなくとも、この目標に合う事業というものがありましたら、そうした事業につきましても取り込んでいきたいというように思っています。

次に３の（３）でございますが、国の総合戦略に合わせまして、北区版の総合戦略といったものも改定をしていきたいというふうに思っております。

そして、３の（５）番になりますが、施策の方向や具体的な施策、事業内容、またＫＰＩにつきましましては、追加ですとか削除、変更等を行っていききたい、見直しをしていききたいと思っております。

もう一度資料４－３のほうをご覧いただきたいと思っております。総合戦略の基本目標のさらに右側にお示しをしているものが施策の方向でございます。そしてその次に具体的な施策というものが一番右側にお示しをしております、繰り返しの説明になりますが、施策の方向ですとか具体的な施策に関しましては、改定する基本計画等を踏まえまして、内容の見直しをしていきたいというように考えているものでございます。

改定については以上になりますが、もう一つご説明させていただきます。資料４－４をご覧いただきたいと思っております。資料４－４、縦型のものになりますが、こちらは平成２７年度、一番最初に策定をいたしました総合戦略、それを２８年度に中期計画の改定

に合わせまして改定をしております。その際の項目の比較というものでございまして、平成28年度の改定版のところを見ていただきますと、赤字でお示しをしているところがございまして、こちらが27年度と28年度で改定をした項目ということになってございます。このような形で今回につきましても総合戦略の改定をしてみたいというように考えているところでございます。

続いて、資料5につきましても、あわせてご説明をさせていただきたいと思っております。

こちらは6月に公表されました国のまち・ひと・しごと創生基本方針2019になります。資料5-1が概要版、資料5-2が本編となります。資料5-1につきまして、ポイントとのみご説明をさせていただきたいと思っております。

1ページをご覧ください。第2期の総合戦略の策定に向けてというタイトルでございしますが、2019年は、国におきまして、第1期の総仕上げと次のステージに向けての準備ともなる検討の時期というように国においては整理をされております。そして、2020年からの5年間になりますけれども、第2期の総合戦略の段階ということで、地方創生の次のステージに入ってくるといったような整理をしております。そして、下のほう見ていただきますと、まち・ひと・しごと創生基本方針2019のスケジュールというところ見ていただきますと、基本方針を6月21日に策定しまして、12月中には第2期の総合戦略を国において策定をする予定というようになっております。

次に、2ページをご覧ください。こちらが第2期の方向性でございまして、第1期と第2期の枠組みがまとめられているものでございます。第2期につきましては、第1期での地方創生について継続を力にしていまして、より一層充実強化するというような考え方を国は示しております。国のビジョン、これは長期ビジョンというものですが、そちらにつきましては、大きな変更はせずに、総合戦略について年内に改定をしていくという考え方というものが示されております。右側をご覧くださいと、4つの基本目標と地方創生版3本の矢についての記述がございまして、4つの目標につきましては、従来の枠組みを維持しつつ、必要な強化を図っていきたいという考え方が示されております。また、地方創生版3本の矢につきましては、こちらにつきましても従来の枠組みを維持しまして、地方創生関係交付金については必要な見直しを行っていく考えというものでございます。

もう少し詳しく見ていきますと、3ページ、ご覧ください。こちらは第2期における新たな視点というものでございます。4つの基本目標に向けた取り組みを実施するに当たりまして、重点を置くものが示されております。1つ目といたしまして、地方への人、資金の流れを強化する。ここには将来的な地方移住にもつながる関係人口の創出、拡大といったような言及もされております。(2)番では、新しい時代の流れを力にする。そして、(3)番では、人材を育て生かす。(4)番では、民間と協働する。そして、(5)番では、1億総活躍社会の流れも酌んでのことと思われましても、誰もが活躍できる地域社会をつくる。そして(6)番では、地域経営の視点で取り組むといったようなところを新たな視点としてつけ加えていくといったことが示されております。

国の方針について資料5番の説明は以上でございまして。

どうもありがとうございました。

ただいま事務局より説明のありました北区まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について、委員の皆様方からご意見を頂戴したいというふうに考えております。

それでは、委員から時計回りの順番に、お一人5分程度でご意見を頂戴いただければというふうに思っております。

それでは、早速ですが、委員からお願いいたします。

○委員

資料3番の基本目標Iで「子育てするなら北区が一番」をというのがあるって、人口が増えているのはもちろん望ましいことだと思うのですが、主に転入に支えられているという状況で、外国人の方にも支えられているという状況なので、もう少し持続可能な形でいくのであれば、やはり基本目標でもIで決められているので、この合計特殊出生率とかがなぜ下がっているのかとか、これを上げるためのKPIの指標として下に掲げている施策が本当に正しいのかということ、ぜひ検証いただきたいと思っています。

絶対検証しなければならないのは因果関係かなと思っていて、私も、ほかの自治体で、実際うちの会社のOBで市長になったり副市長になったりしている者がおりますので、その人間とも話すんですけども、最も重要なのは、予算をつけるときにうまくいっているところには予算をつけるべきですし、うまくいっていない、因果関係が立証できないものについては予算を減らすべきですと。予算を増やす減らすみたいなのをどういう基準でやるかというときに、やはり因果関係がわからないとわかんないですね。これをやったから出生率が上がった可能性があるとか、これをやったから何か出生率につながる手前の指標がということなので、一旦今まではKPIというのを自治体としてちゃんと定めて、それを見ていきましょうということ自体やってきたのが、ここ数年の一つの成果だと思うのですが、この先、見直しを考えるのであれば、きちんと因と果が立証できているものと因と果がはっきりわからないものと全く因果関係がもしかしたらないかもしれないというものをきちっと切り分けて、子育てをする方々にとってみて、本当に住みやすいまちになっているかというのを見るべきかと思います。

その際に、最も重要なのは、この数年間の中で最も子育て行政で成功した自治体は一体どこなのかということとの比較になるのかというふうに思います。私はたくさん知っているわけじゃないですけども、結構有名なところだと、兵庫県の明石市とかは多分有名かなというふうに思います。兵庫県の明石市は何をやったかという、シンプルに第2子のお子さんの保育料を無料にしたり、それ以外に青少年の家みたいなものを全部子どもたちは無償で利用できるようにしたとか、あと駅前に子育て広場みたいなものを設けて、そこで子育てママとお子さんが遊べる空間を普通だと有償で払うお金のレベルの施設を全部無償提供するとか、徹底して確かにお母さんからして見たら安心というのではなくて、魅力的ですね。明らかにほかの市と比べて子育てコストがこんなに安くなるみたいなものも明確にツールとしてつくって、それをさらに不動産会社さんにも配って、不動産会社さんがそれを説得するみたいな、説明するというようなことまで一貫してされているので、もし見直しをされるということであれば、せっかくですから基本目標Iのところ为上向くように見直しをしていただくべきで、その中で、この数年間で

うまくいった自治体の施策のどこを、少しある意味まねするのかというところはやっていいのかなと。ぜひまねするときには、23区内で戦っても仕方がないと思いますので、23区外の市でうまくいっているところ、特に関西圏とか名古屋圏とか違う圏を見に行ったほうが参考にしやすいのかなと思いますけれども、そこをぜひ見ていただければいいのかなというふうには思っております。

区に入ってくる人から見たときに、保育所とかは入りやすくよりなっているし、産後ケアとかもこのKPIにあるように、何か安心感は増しているんだと思うのですが、一步踏み込む、何かわざわざやはり北区にどうしても住みたいと思える施策というものと、住んでから、実際住んでよかったなと思える安心施策というのは多分別かなと思っています。私の意見としては、やはりこれがあるから北区にわざわざ住みたいという施策を追加しないと、なかなかこの部分が改善しないのかなと。もっと言うと、ターゲットを明確に定めて、子どもを一回も産んだことがない人たちを呼ぶんじゃなくて、1人産んだお母さんが2人目産もうと思ったときに、北区に引っ越してみようかなと思えるぐらいの施策って何だろうとか、そのぐらいターゲットを明確にして施策をやっていたらいいのかなと思っております。

政策目標で掲げているI番を実現するための見直しにかなり注力をしていただいて分析していただければありがたいなと思っております。以上です。

○会長

ありがとうございます。

委員、お願いします。

○委員

私も子育て関係なんですけれども、まず、先ほどの転出入の理由になっている家のことなんですけれども、実際北区に住んでいる中で、最近話題になっている赤羽なんかは、飲むまちということでテレビとか雑誌に出ていて、親からすると昼間からお酒を飲んでいる方がいるまちで子育てはしたくないんですね。なので、飲みに行くのには楽しそうだけど、住むのにはと思うだろうと思ひまして、実際に飲み屋街で有名になっている近くにある赤羽小は、飲み屋街を子どもたちが登下校通るといので、お母さんたちの中でも、あれは大丈夫なのかって、毎回、話に上がります。

それから、1人、2人で住む家はたくさんあるんですけれども、子どもが3人いる家というのはなかなか住むところが見つかりません。マンションは高いし、ましてや一戸建ては買えないし、家を探していて、子どもはお断りと言われたりとか、あと子どもの内訳を聞かれたりするんです。男の子はいないでしょうねとか聞かれて、やっと探して見つかるという状況なので、幾ら保育所とか待機児童がとなっても、子どもが増えて住む家がなくなる、手狭になったらやっぱり住みやすいところに出ていくというのは、なるほどだなというふうに個人的にも思いました。

あとは、今、厚労省で地域共生型サービスの推進というのを掲げているようなんですけれども、最近、話題の幼老施設という、幼児施設と老人介護施設を共同してというのがだんだん増えているのですが、最近その中でも、特別支援の学生さんだったり、障害

を持っている方が介護施設で働いたり、そこに子どもが来たりというさらなる交流が増えてきているという話で、なかなか行政でやるのは難しいかと思うのですがけれども、企業を巻き込んで、そういった形も北区は特別支援学校が都立のもありますし、高齢者が23区で一番多いし空き家も多いしというところで、何か企業を巻き込んでできないかなというのは感じました。

あと、産後シェアハウスですと、上用賀のほうに、元保育士が運営しているシングルマザーのシェアハウスがあるんですね。この取組みをきっかけに、地域でNPOだったりいろんな団体が、そういったシングルマザーのためのシェアハウスがちょっとずつ増えているなんていう話ですとか、あと文京区のスリールという企業が、学生向けのインターンとして、子育て体験の一環で、スリールに働いている共働きの家庭に大学生を派遣して、お迎えだったりお手伝いをしてもらって、共働きの家庭は助かるし、大学生は将来、子どもを持ったときにどんな家庭をつくるかというイメージができるし、子どもに接することができるという、すごくおもしろいことをやっている会社があったり、いろいろ調べてみると、北区でもまねできそうなことは何かあるんじゃないのかなと思います。

それから、資料4-3のビジョンの具体的な施策の中で、子どもセンター・ティーンズセンターへの移行というところで、設置は進んでいますけれども、子ども・子育て会議の中でも利用実績が全然検証できていないという話が出ていました。もちろん人数は何人とか、そういった形では出ているんですけども、それが実際に児童館ではなくなって、中高生たちがどのぐらい利用しているのか、そこをちゃんと心のよりどころとして機能しているのか、箱だけではなくて、ちゃんと子どもの居場所になっているのかというのがまだまだ必要なんですね。ただ、つくりました、さあ、来てくださいというだけでは、中高生なんてなかなか知らない場所に行かないんですね。今まで児童館だったら幼児のときからずっと行っていて、小学生でお祭りをやったりクラブ活動して、そのまま来ていたところが、全く行ったことのないところへいきなり行くというのは、やっぱり難しいので、何かその中で中高生が来たいと思う仕組みづくりを、より考えていかなければいけないなと思います。学童は待機児童の数がゼロになると近隣区から人が来るので、どうしてもこの数字をゼロにするのはなかなか難しいところではあるんですけども、それで待機児童が出たからどんどん増やすというふうになると、数だけで質がどうしてもおろそかになりがちになってしまうので、保育の量だけではなくて、北区はとてこもない保育をしているよ、学童保育でこんな特徴的な活動している、ほかよりもいいよという部分を打ち出していかないと、ただ、入れる場所だけでは、やはりお母さんたちも不安が出てくると思うので、子どもが安心してゆったり楽しく過ごせる場所、まずそれを第一に今後も進めていただければと思います。

以上です。

○会長

ありがとうございました。

委員、お願いいたします。

○委員

先ほど2020年から国の総合戦略も含めてまた改定されるということだったのですが、改めて、もともとまち・ひと・しごとの考え方で、地方に人口流出させるという目的だったので、北区でこういう議論するのがどうなんだろうとまた改めて感じてしまうところではあるんですが、簡潔に5点ほどお話を伺ってということで、まず、全体に関するところなんです、一つがやはり、まち・ひと・しごとの基本的な考え方、率で算出するような傾向が結構あるのかと思っています。例えば高齢化率とか空き家率であるとか創業率であるとか、ただ、東京都、特に北区に関する問題意識を考えていくと、例えば高齢化率は低かったとしても高齢者数が多いとか、空き家率は低くても空き家数は多いとか、あとは創業率でいくよりも人口が多いのも考えると、創業者数がどのぐらいという、そのあたりの数字の立て方というのが、もちろん何か他地域との比較という中ではある程度率というところもあると思うのですが、改めて戦略を考えていく場合には、率でいいのか、ないしは数である程度勘案していくべきなのか、その両方、数字を拝見すると感じているところがあって、特に数的に算出をしていかないといけないんじゃないかなという点が幾つか感じられたところでありました。ほかの地域との比較の中でどう考えるかは別にしても、そのあたりの問題認識からすると、率より数で考えてったほうがいいかなという点が1点目でございます。

2つ目が、この平面的な数字よりは、例えば東洋大学がまた赤羽にという話ですとか、あとオリパラがという話ですとか、あとAIが進んでいるとか、いろいろな外的要因とか地域的な要因というものをどう勘案するべきかということも感じました。ですので、地域の変化とか社会的な変化の中で、これがまたどう数字を変えて考えていくべきかなという要因もプラスアルファで加わると北区的な展望ももう少し丁寧に考えられるのかなと思いました。

それから、3点目ですが、長生きするなら、ないしは子育てするならということもそうなんです、やっぱり何か横断的に考えていくと、まとめて課題解決につながるんじゃないかなと感じている点もたくさんありまして、例えば非常にシンプルに申し上げれば、シニアの方々に創業していただいて、子育てにかかわる取り組みを担っていただければ、まさに高齢者もいきいきするし、創業率も創業者数も増えるし、子育てするならという課題もある程度解決できるし、仮にですけれども、それぞれのテーマでの課題というものを横断的に戦略立てていくことができれば、相乗効果的に上がっていくんじゃないかなという視点が加わってくると、またもう少し何か戦略のイメージも変わってくるんじゃないかなというのも少し感じました。

それから、4番目なんです、先ほどの人口の流入流出にも関連してくるのですが、どうしても例えば北区単独での戦略に捉えてしまう嫌いはあるのですが、もう少し例えば埼玉を取り込むとか、23区の窓口として北区が例えば東北の玄関口になるとか、もうちょっと広域戦略的な中での北区の戦略を考えていくということもまち・ひと・しごとの戦略の中に加味されると、もっと何か視野とか展望も広がっていく、結果として北区全体が活性化を促すこともできるんじゃないかなという感じもいたしました。

最後、5点目なんですけど、少し資料3の3ページ目にある創業に関してのところでお話をさせていただくと、今現在、実際、北区でも創業計画に基づく創業者数含めて、

ちょっと僕も数字を拾うのをお手伝いしているので、実際こういった数字を見ていると、確かに北区でも創業される方は着実に増えている印象はあるんですが、国の統計見ると、ここ1、2年で見ると創業者数がやはり激減しているんですね。急激に。社会的な動向かわからないですけど、何か創業に対するリスクを非常に感じる方が多くなって、むしろ安定した職を求めたほうが安全じゃないかという、多分2,000万円問題とかいろんな不安もあって、創業のリスクを考えるよりは就労のほうがいいんじゃないかという傾向もあるんだろうと思っています。

ただ、北区の傾向を見ると、数字上でも小規模な創業していて、実はあんまり廃業しない方々が実際多いです。例えばネスト赤羽というインキュベーション施設でも、今15年が経過しているんですが、廃業率って5年で大体15%しか残らない。85%が廃業するという数字の中でも、15年の中で約100社で見ると7割近くが残っているんです。そのうち65%が北区で外に出ずに継続して地元でやっていると。この数字から見ると、小規模でも着実に地元で長くやっていくという創業者の傾向があるので、ある意味、ただ単に数を増やすということだけではなくて、もう少しそういった人たちが経済循環の担い手として継続している人たち同士をやっばりうまくコーディネートしていく、タイアップさせていくことによって、経済的に上増しは少なかったとしても、経済循環、B to B的なネットワークは非常に広がっていくんじゃないかなと思いますので、そういった例えば傾向を踏まえて、創業者数を増やすということよりは、廃業が少ない小規模な企業家が多いということを含めて、もう少し丁寧な戦略に位置づけられると北区らしい創業に対する支援というものも描けるんじゃないかなという印象でございます。以上です。

○会長

ありがとうございました。

それでは、委員、お願いいたします。

○委員

今、委員からのお話いただいた件で、例えば廃業率が低いと。これは我々、私どもの会社でもそうなんですが、実際に今事業承継という問題が全体的に金融界全体でもクローズアップされています。我々も実際、先ほど言った廃業率が低いという件でございますが、今現在、例えば私どもで先達てアンケートを取っていて、265社ほどアンケートをとって、廃業、いわゆる事業承継に関して後継者は決まっているというのは51社しかなかったんです。ところが、事業承継という問題に勘案しますと、約200社ぐらいが決定してないわけです。ただ、200社、事業承継に関して後継者を決定はしてないのですが、ご商売やめるわけではない。というのは、やはり元気なうちは商売を続けますよと。事業承継という問題に関して、お客様はある年齢になって自分が体力が持たうちはやる、そうでなかったらやめると。これは事業承継という問題もお客様の問題でなく、事業承継というのは我々金融機関といわゆる地域の問題も一つあるかと思うのです。やはりお客さんがいずれはやめるよという方向ですから、経営課題にはなっていないわけです。課題になっているのは金融機関と地域の問題であって、やはりその辺が

お客様の今の認識度合いというのか、そういったものが具合が悪くならない限りは、今現状、ご商売として企業が成り立っているのは確かです。

ただ、大手さんはともかく、中小企業はやはりそういうような状況が多いということでごさいます、基本目標Ⅲに創造へのチャレンジですとか具体的に新たな産業でということもあるんですが、先ほどのお話のとおり、創業、確かに私どもも創業支援という形のセミナーを約5年間行いました。延べでお客様自体で5年間で約270人ほどご参加いただいております。ただ、その中で実際に起業されたお客様というのは、絶対数はそんなに多くはないんですが、仮にご融資をお使いになったというところだけでいきますと、約40社ほど、あくまで私どもでということですが、そうすると、40社ということは、約270社の40社ですからパーセンテージは決して低くはないところではございますが、ただ、それよりも今のお話のとおり、お客様が事業承継でいずれは廃業をする数のほうが多いということでごさいますので、そういった先ほどお話のとおり、創業もしかりなんですけども、現状で事業承継も含めてそういうお客様方のネットワークをつくっていただいて、お互いのビジネスを今マッチングというご商売は当然ありますが、M&Aを含めて。ただ、地域でごさいますので、そういった情報網の活用をしながら、そういったお客様に長くご商売を続けていただく、もしくは小規模ながらもM&Aで続けていくというようなことも大事なのかなというふうに感じました。

以上です。

○会長

ありがとうございました。

委員、お願いいたします。

○委員

私も子育てのことで少し。資料を見る限り、待機児童も減っておりますし、学童も随分増えていていいかと思うのですけれども、今後の子育てというか、生産人口が増えていくに当たって、子育て世代が増えていくに当たっては、小学校、中学校もやっぱり人数が増えていくと思うのですね。その意味においては、ティーンズセンターというのはもう少し早急に移行できるようにしたほうがいいのではないかというのが一つと、あとは小学校に対しては、先ほど一番最初にあったように、外国人の流入・転入が多いということで、外国人自体が増えているかと思ひまして、彼らに対するケアというのが絶対必要になってくるかと思うので、今のところ、北区では、聞いている限りでは全く日本語ができなくて、日本語学校がないと、日本語クラスがないと大変だということは聞いてはいるんですが、ただ、一部日本語支援クラスのような形でボランティアの方が入っているところは聞いていたりするので、そういったところも実は先回りして、北区はそういうのもクリアになっていますよというふうにすると、もう少し全体としてきっと子育てするのは北区が一番、それは国籍を問わないということで、とてもいい感じになるのではないかなというふうに思います。

○会長

ありがとうございます。

それでは、委員、お願いいたします。

○委員

4点ほど感じたことを述べさせていただきたいと思います。

資料3番のほうで、産後デイケアの利用者数というのが出ております。いろいろニーズもあって、皆さん利用されてよろしいかと思うのですけれども、私が何カ月か前聞いたときには、4カ月待ちだということをお伺いしました。産後ケアの育ち愛ほっと館など、北区が助成を出してやっていたところがあると思うのですけれども、週1回のオープン日のようで、聞いたときには4カ月待ちで、生後1カ月から6カ月の方がご利用できるということなんですけれども、4カ月も待っていたら一番しんどい時期、産後鬱とか発症しそうな時期を逃してしまうのではないかなと感じました。ただ、先ほどサイト拝見したら、9月末ぐらいから空きがあったので、今2カ月待ちぐらいなんだなと思って、前よりはいいんだなと思って見ていたんですけれども。

先ほど配らせていただいた「ほっこりーの」というフリーペーパーの裏表紙のところに、助産師ママさんが産後デイケアを開業したいというようなことをおっしゃられて、今、秋からオープン予定で考えております。こちらもまた週1回ぐらいにはなってしまうかもしれないんですけれども、助産師の方で起業したいという方がすごく増えていると思います。実は今、委員のところのコミュニティビジネスの推進委員やらさせていただいて、起業の相談に乗るというお役目をいただいているんですけれども、この2カ月で3人ぐらいの助産師の方から起業の相談を受けました。やはり皆さん、子どもが2人、3人という、病院勤めが大変である、夜勤できないというのを言うと、病院で針のむしろじゃないんですけれども、居心地が悪くなって居場所がなかなか見出せなくなる。それだったら、看護師は開業できないけれども、助産師は開業できるので、自分で何か産後ケアをやりたいと。ただ、家賃払う心配があるですとか、自分も子育て中なので、どちらもフルタイムではできない。やはり病院に勤めていたほうがお金的には安心なのでということで踏み切れないというようなご意見をいただいたんですけれども、1人の方が、ちょうど引っ越してきて離職されたということで、じゃあ、思い切って自分でやってみようかなということで、うちの志茂店の場所を借りていただいて、一緒にやってみようかというようなことになっておりますけれども、ニーズとしては本当にあると思いますし、足りてない部分なのではないかなと感じているところです。

あと、2番目に、こちらの妊娠、出産、子育ての切れ目ない支援の中に入っていないものなんですけれども、他区がやっていてすごくいいなと思ったので、北区でもやれたらと思っていることなんです。養育支援訪問事業ガイドラインというのが厚生労働省から出ていて、産後家庭の訪問のニーズ、これも非常に高いと。この前、ちょうど東京医科大学の教授の方から資料いただいたところだったのですが、要は産後間もない家庭に医療関係者とか国家資格持っている人の有無にかかわらず、育児を支援する人が全戸訪問をして、ママたちのお話を聞くというようなことをやり出している区がありまして、非常に好評であるというのを聞いております。

産後間もないママたちにいろいろ統計をとったという産後1年未満の母親の産後家庭訪問に期待するニーズというのを助産学会のほうに発表された資料によりますと、270名のうち185名、約68.5%の人が専門職じゃなくても来てくれるとありがたいというようなことを回答されているそうなんです。要は上位のほうはおっぱいケアですとか骨盤ケアですとか、専門職じゃないと答えられないようなことを求めているらっしゃるんですけども、あとの4割の方々は自分の話をよく聞いてほしいということですか、励ましてほしいですとか、仕事やキャリアの相談をしたいという方が約4割を占めているということですので、そういったことをなかなか今、保健師さんが不足で全戸訪問が大変だというようなことも少し聞いたことあるんですけども、そういったところを例えば民間の団体とかに投げてやっていくというのも一つではないかなと思いました。

あと、保育園に関して、北区は、制度が大きく保育園入園関係が改正されて変わりました。要は何が変わったかということ、小規模保育園事業、0歳から3歳までのその後の人々の優先順位が高くなりましたということですか、採用が内定している人は入りやすくなるですとか、あとまた兄弟別々の保育園に通って、あっちもこっちもで大変だった人たちが有利になるというようなことなんですけど、ただ、どっちに寄せていくかという問題はあるかなとは思うのですけれども、2人目、3人目とかじゃなくて、本当に初めてのお子さんを育てている、転入してくるという人にとってはどうなのかなというところはあるのかなと、この結果を見て思った次第ではあります。でも、やはり北区の保育園は、入りやすいというのは皆さん口をそろえておっしゃっていて、それをまた聞いた人たちが流入してしまうので、今年は少し厳しかったのかなというのうかがえるのですけれども、でも、総じて子育てのその部分は手厚いというのは、皆さんほかの区の方々と接するときによく言われるので、そこはもうとても有名になっていて、プロモーション的にはすごく成功していらっしゃるんじゃないかなと思った次第でございます。

あと少し余談になるのですけれども、今日たまたま旦那さんが鬱病になってしまって、2人の子育て中、下は赤ちゃんを抱えているようなママが非常に大変だ、つらいというようなことをおっしゃっていました。この1カ月で3人ぐらい旦那さんが鬱病になって会社をやめられて、一戸建てのお家売ってアパートに引っ越したですとか、起業とかも興味あるけれども、とてもそんな危ない橋を渡れる状況ではないですとか、とにかく生きていくのに必死というようにお話しをこの1カ月で3人聞いたので、鬱病というものも非常に社会的な問題としてあって、3人ともみんな北区在住のママさんたちでいらっしやいます。

ママさんから出たのは、窮地に陥ったときに、いろいろなところに情報を探しに行く、取りに行くのがとても困難であるということで、ここを見たらこういう支援が受けられるよとか、サポート体制が分かりやすく見られるようなものがあるとすごく助かるというようなことをおっしゃっていました。そばでいろいろなことの、心の重荷を置ける場所というのはやっぱり必要なのかなって、そんなことも感じつつ、こちらのKPIの指標なども見させていただいた次第でございますありがとうございます。

ありがとうございました。

それでは、委員、お願いいたします。

○委員

資料3番の実績一覧、K P Iのところでは2カ所ほど私どもの業務に関係のあるところがありますので、この辺を絡めて少しお話しさせていただけたらなと思っております。

私どもご承知のように、厚生労働省傘下の出先機関ということでございまして、仕事を探している方と、それから従業員を募集している企業様、これをマッチングさせるというところが主な仕事でございます。管轄がございまして、北区を管轄させていただいているというところでございまして、北区さんの動向が私どもの業務量にも影響してくるのかなというのは少し思っているところでございます。まず、基本目標のⅡ番のところ、女性とか若者、高齢者の活躍を応援するというところで、就業率のお話が出てきたかと思っておりますが、私どもあらゆる層のご紹介、就職に向けてご支援をさせていただいておりますけれども、昨年度の数字を見ますと、年齢別に見てきたんですけれども、やはり65歳以上の方のお仕事探し、求職者と呼んでいるんですけれども、この方々が一番多い層だったのがびっくりしたところです。年金2,000万円問題もありますけれども、定年を過ぎても働かなければならない方々も実際はいるのではないかとこのところをちょっと感じているところでございます。それだけ意欲があれば支援をさせていただいて、実際、就職なさっている方も年齢別に見ると一番多いというところでございますので、引き続きこの辺も北区様とも連携をさせていただきながら、共同運営をしているようなコーナーなどもありますので、そういったところでお手伝いさせていただけたらなと思っております。

それからもう1点、基本目標Ⅲのところ、先ほどから創業支援とか事業継承とかいうお話も出ておりますけれども、人口の増減ばかりではなくて、いわゆる創業、仕事ですね、新たな仕事が出てくれば、私どもとしてもいわゆる求人という形で頂戴をして、それをさらに北区在住者でお仕事を探している方に提供して、職住接近をした雇用へということにつながっていったらなというふうに思っておりますので、いずれにしましても、今後とも国の機関ではございますが、北区様と連携をとらせていただきながら、少しでもお役に立てればと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。以上です。

○会長

ありがとうございました。

それでは、委員、お願いいたします。

○委員

まず、キャッチフレーズと申しますか、子育てするならば北区が一番、私どもがかかわらせていただいているところで、その前に長生きするならば北区が一番というのが確かありまして、高齢者に関しての問題提起はありますけれども、高齢者に関するキャッチフレーズが見当たらなかったと思います。人口増に関して私が実感として感じているのは、やはり流入者が多いという理由に高層マンションと申しますか、集合住宅の増加がすご

く多いと思っております。戸建てだとかというよりも、どちらかというともマンション群で人口が増えているような印象を大変強く受けております。訪問をするにしても、今のそういうところというのはすごく入るのに入りにくいというようなところがありまして、どうしてもそこだけで一つのまちというか、自治会のようなものをつくっているところが多くて、地域への参入は少ないような印象をすごく受けております。そういう意味では、住みよい地域をつくろうといったときに、周りの方たちとの交流というのが少ないのではないのでしょうか。暮らしていくにはそこだけで十分済むんだということであればそれまでなんですけれども、北区全体を住みよいところにしたというのでいけば、もっと連携をとれるような何かシステムが深まってもらったらいいいのかなというふうには感じております。以上です。

○会長

ありがとうございました。

それでは、委員、お願いいたします。

○委員

私の身近なところから少しお話しします。電機大学ですので、足立区さんともこういうお話、もうずっといろいろな委員会に出ています。区民委員の方で私が会長になって足立区のまちづくりをどうしていくんだとか、足立区さんがやっているプロジェクトについて区民の方と評価していくわけです。区民委員の方は2年任期で交代されるので、6年続けているんですけど、たくさんの区民さんの方とおつき合ってきて、本当のところを聞かせていただいています。

私、足立区は電機大学ということもあって非常に親近感もあるし何とか区のために、北区についても一時期学生のとくに住んでいたこともあるんですけど、とにかく、区民さんと別に意見もそんなにぶつかり合うわけじゃなくて、いい方向にまとめようと、やっているんですけど、最後に残るのはやっぱり区民の方は、区の中のことしか考えられてはいない。私は、外から見ているものですから、区民の方と決定的な違いが出てきます。そこに、足立区、これは北区さんに置きかえてもいいと思いますが、広島カーブになってほしいです、ジャイアンツじゃなくて。きら星のような人材を育てて、去る者は去ると。だけど、またきら星のような、若者に限らず、転入者にとって非常に魅力的な場所となり、そこで一時期暮らしていただく、活躍していただく。またそこから巣立っていただく、そこに定着しなくてもよいです。それが実は、ここは、北区かどうかはちょっと、足立区の役割じゃないかっていつも私は言うのですが、そこはやはりそうじゃないよと、区のためにやっていることなんだから、今の区民がどうなのかと。当然なんですけど、それでは成長性を感じないというか、持続性も感じられないのです。まちづくりにしてもそうです。広島カーブと申し上げたのは、優秀な人材を育てている場所だとか、活躍できる人を育てている場所だというふうに、ある程度入れかえということも認めていかないと、いろんな公共施策が無駄になってくるんです。そのうち廃れてしまう。小学校廃校とかが最たるものです。そこが一番ぶつかる場所です。

そういうことを踏まえて、国の方針を拝見しますと、これから改定されるときに、こ

これは別に北区のことを全然念頭に置いてないと思います。地方と言っている。そのときに北区って北区のことだけじゃなくて、この近隣地域全体を見たときにどれだけ貴重な役割を果たせるか。その役割は子育てするなら北区が一番ということ。もう少し先のこと言いますと、一時期子育てされた方々が卒業し、また新たな子育て世代に来てくださいということになります。

待機児童数が出ていましたけど、一時期減ってきたのが増えたんですよ。これ分析されるといいと思うのですが、要するにどんどんつくっているんだけど、待機児童数は減らないんです。これは公共団体として非常に健全な姿だと思います常に人気はそのまま一定以上に保たれているということですよ。待機児童がゼロになった、マイナスになった、実は人口が激減しているところかもしれないですね。もっと山間部だったりするかもしれないってこと考えますと、これは非常に健全な姿なんです。待機児童数は減らさなきゃいけないと言いつつも、こういう数字は健全だと思います。分析されるといいのかなと思います。

先にまとめますと、多様性ということは総合戦略のなかに入れてなかったでしょうか。多様性と持続性は、日本における北区の役割なんじゃないかと思います。私、専門がまちということもあって、住宅についてなんですけど、公団、URの賃貸住宅、30年代、赤羽を最後にこれで建て替えて間もなく終了ということになります。建て替えるまではいろんな団地の、都営住宅も含めてなんですけど、長い時間かけて空き家にするんですね。今住んでおられる方が転出された後、補充しない。補充停止をかけて10年も空き家を増やしてから建て替えに着手します。ということは、これまで公的住宅が非常に空き家多かったんだと思うのですが、今それもなくなっているんだらうなど。これから40年代に建てた団地をどうするかということに突入しましたので、ここである程度のストックの更新と、全部建て替えるということはないと思いますけど、昭和40年代につくった一番分厚いところのリニューアルに着手することになります。これが高層住宅ばかりで大変なんですけども、そういうステージに入っていきます。そこでどういう住宅とどういうまちと、先ほどありました地域になじむコミュニティーをつくるかというのが非常に重要なことになっていくんじゃないかと思います。それもこれも多様性と持続性を備えたまちづくりということにつなげる、北区の日本における役割をよく考える、そういうことかなというふうに思いました。

外国人、もっとこれはウエルカムにならないですかね、いい方向に。先ほど一番最初に増えていますとありましたが、これが問題と捉えるのか、どうしたらそれをプラス、ポジティブに受け入れるまちになるのか。人口は減ると思いますけど、外国人増える、トータル減らないんじゃないかというようなビジョンもあり得るかと思いますけども、今のところは皆さん問題視されてばかりです。バリアフリーを考えると、本当のバリアって言葉なんですけども北区が本当に英語が通じるまちになるとか、ちょっとここからどうしたらいいかわからないところなんですけど、ポジティブに受け入れるまちになるとよいと思います。

○会長

ありがとうございました。

私からも少しだけお話をさせていただきたいと思っております。

委員の皆様から貴重なご意見いただきまして、それに加えるものもないのですが、3つほど違うことを話を申し上げたいと思っております。委員もご指摘されたように、地方創生の話の流れからすると、北区が何をやるかというのは、実は国の方針とか、どこまで整合的なものつくれるかって非常に難しいところあるというふうに感じています。多分今後の地方創生の中で言うと、地方に人を出すという以上に、東京一極集中をどうするのか。オリンピック・パラリンピックが終わった後の東京はどういうふうな形になっていくのかといったときに、今のまま東京がこのような形でどんどん人が入ってくるような社会が続くのかどうかはよく分からないんじゃないかと思っています。例えば23区の中でも世田谷区は今とても人が増えて、北区以上に人が増えて、小学校で1,000人を超える学校がたくさん出てきたというところがある一方で、私の出身の小学校は今年の3月で廃校になりました。そういうように、区の中でも、23区の中でもいろんな色の違いが出始めていくんじゃないかなというのがあります。ですので、その中で北区がどのような形で自分の戦略をつくっていくのか。多分これは北区だけじゃなくて、例えば隣の荒川区やあるいは埼玉の南のほうの市との連携というのは非常に重要になってくるんじゃないかなという気がしています。これが1点目です。

もう1点目は、すごくプログラマティックなのですが、1月に日経新聞が自治体のSDGsを発表して、その中で板橋区が相当高い順位をとったんですね。23区の中でも高いところと低いところがはっきりしています。中野区に知り合いがいて、いろんな話したら、やはりSDGsってこれからの大きな流れになってくるし、例えば総合戦略の第2期総合戦略の中でもこれを考えろという話がありました。基本目標を変える必要は全くないと思うのですが、言葉の中にSDGsは少し意識しているというようなのは、どこか入れたほうがいいんじゃないかなというような気がしております。多分Society 5.0もそうなのですが、言葉だけで何の意味もないって言われてしまうとそうかもしれませんけども、やはりそういったものを意識してつくっているかどうかというのは、少し意識したほうがいいかなというのは2点目です。

3つ目は、先ほど委員からのご指摘とも重なってくるんですけども、高齢化の問題というのがどうも忘れられているといいますか、非常に子育てについては専門の委員の方がたくさんいらっしゃるってお話を伺っていて、そうだなと思ったんですが、例えば介護の問題とか医療の提供の問題というのは、東京の区では弱いところが多いんじゃないかと思っています。とりわけ介護の人材の問題だとか介護の収容の問題であるとか、そういったところも踏まえて、基本目標のところには何か追加していただければいいのかなというような気がしております。

以上、やはり総合戦略をつくるということになってくると、基本計画もそうなんですけども、今年、来年ではなくて、ちょっと先のことを踏まえながらお考えいただければいいし、特にオリパラの後を意識されたようなものと考えていただければいいと思います。

最後には注文なんですけども、人口の見通しは変えないというのは私も聞いておりましたし、それはそれでいいと思うのですが、外国人のところだけ、少しそこだけ見直しをしていただくほうがいいかなと。外国人の伸び方というのがちょっと想像ができない

中で、ただ、オリンピック・パラリンピックが終わった後のどうなるか、あるいは特定技能の人たちがどこに住むか、あるいはその先どうなっていくのかとなかなか分からないところがあるんですけども、変えなくてもいいんですけども、検討だけはするような方向性をお持ちいただくといいかなというふうに思っております。以上です。

皆様方からの一通りご意見いただいたんですが、今日3人の委員の方がいらっしゃってないということで、また時間に少し余裕がございますので、この後、もしご発言されたい委員の方いらっしゃったら、この後、ご自由にお願ひできればというふうに思います。

○区

その前に、本日、ご欠席の委員からご意見いただいておりますので、ご紹介させていただきたいと思ひます。

会議欠席のため、文書にて北区版総合戦略の改定に当たり、下記の2点を強く要望します。基本目標を変えないという前提に立ち、いずれもまちづくりの一層の推進を図り、北区の個性や魅力を発信する施策の方向としてレベルを上げ位置づけるべきものと考えます。1、民間との協働です。国は第2期における新たな視点を発表しています。これらに通ずるところは地方創生に経営という概念をはっきりと入れて、継続的、持続的な地域づくりをしていくという考え方ではないでしょうか。これらは自治体だけで達成できるものではなく、地域づくりを担う組織を育て、企業との連携を図っていく民間との協働がさらに重要性を増すものと考えます。従来手法にとらわれない具体的な施策を設定していくためには、施策の方向性として位置づけるべきと考えますということです。

2、シティープロモーションの推進。シティープロモーションは地域経営のマーケティング戦略の実施を本来全庁で取り組むべきものとして基本目標に据えた上で、根幹となる施策の方向性とすべきものと考えます。今回は基本目標Vのまちづくりの一層の推進を図り、北区の個性や魅力を発信するを広義に捉えた上で、施策の方向性に捉え、具体的な施策の策定、推進をしていくべきだと思ひますというご意見をいただいております。

○会長

ありがとうございました。

それでは、事務局のほうから何かほかにお話しすることありますか。今までの委員の皆様方のお話に対して。

○区

感想でよろしいでしょうか。さまざまなご意見、まずありがとうございました。いろんなお話を伺っていて、やはり基本計画ともかなり共通しているんだなという思ひがあつて、あのときもかなり北区らしさの話をされたり、SDGsの話も伺っていて、多分今回いただいた意見というのは当然この総合戦略だけではなくて、基本計画の中でもかなり反映させていただく部分が出てくるのかなと思ひています。取りとめのない話なんですけど、自分の感じたこと少しだけお話しさせていただきたいと思ひています。

まず、最初に、やはり目標値とかKPIの話含めて、パーセントと数字って自分もす

ごく正直考えているところがあって、パーセントのほうと比較はしやすいんですけど、例えば高齢者の数とかでも数字で見たほうがこれだけひとり暮らしの高齢者の方がいるんだって思ったときに、その数字を見たときのほうが区として何をしなくてはいけないかイメージが湧くものがすごくあると思っていて、先ほど委員の方からもそういったお話をいただいたので、本当にその辺というのはきちんと分かるように使っていかななくてはならないなというふうに思いました。

それから、施策横断的というお話の中で、また助産師さんからの具体的なお話も伺って、そういった形で、横断的に組み立ててきていたらすごくいいものができるのかなということを実感しました。

あと、すごく自分で思っているのが、明石市のお話を先ほどいただいて、自分も明石市の市長のコメントとか話を随分読んだことがあって、実は明石市は、いさぎがいい市だなと思っていて、あそこはもう大学の誘致なんか一切しません。なぜなら、自分たちはそういう方たちは求めませんと。明石で育て、一回ほかへ行ってもいいから、2人目の子を産みたくなくなったころに戻ってきてもらえればいい。考え方がすごく潔くて、だから第2子の保育料とか無償にしているんだと思うのですが、やはりできること、その因果関係を明確に打ち出して、そのために何かやるというのがすごい明石市は強いんだと思うのです。それで子育てしやすいまちというふうになってきていると思っていて、北区も実は正直、いろんなことを今頑張ろうとしているんですけど、どんどん予算が膨れていて、そろそろ本当にここに力を入れて、こういうところは少しごめんなさいと。ただ、それをするためにも、やはり施策の効果をきちんと判断していかないと、そういったこともできないなというのはすごく感じているところです。

あと、子育てしながら働く世帯への支援というのは、正直、区長もすごく力を入れたい部分で、そのために保育園とか学童クラブの待機児童解消にはかなり力を入れてきたつもりです。ただ、先ほどもお話しいただいたように、おっかけっこになっています。正直言って現状はまだ学童クラブも待機児童が出ていますし、このままだと来年、保育所も学童クラブも待機児童出してしまうと思っています。今何かというと、総量は足りているんですけど、地域偏在が出ていて、それにまだ対応し切れてないということなので、ここもやはり詳細に分析して、待機児童が出そうな場所に集中的に対応をとっていく、それが必要な話かなというふうに思いました。

今日いただいた意見の中で、自分が個人的にすごく難しいなと施策考えるとき思っているのが、一つやはり多文化共生の視点で、外国人人口の外国人の方と日本人の方がいかにうまくやっていくかというのが、どういった会議の場でもさまざまなご意見が出て、もちろんウェルカムでやっていかななくてはならないんですけど、国籍が余りに多様化していることと、スピードが増える人口が余りに多いので、どうしても対応がし切れない。やはり保育園とか教育現場でもすごく課題になってきているというのは本当にどうしたらいいかなというのが一番感じています。

それからもう一つ、高齢者の方の就労もかなり言われています。生きがい就労の部分もそうなんですけど、それ以上にやっぱり働かないと生活が厳しい方たちの就労、これは、ハローワークの方に本当に一番現場で見てらっしゃるんでしょうけど、我々としてもそれをどうにか施策に打ち出してくださいとはよく言われるんですけど、こうやって

生活していくためのお金を稼ぎ出すための就労となるとなかなか難しく、いい施策が打ち出せてないというのが自分でも痛感しています。それはこの総合戦略でも基本計画でも考えていかななくてはいけないのかなと強く思っています。

何か取りとめのない話になってしまいましたけど、今いただいた意見を中心として、これからさらに考え方を深めていって、総合戦略、基本計画で少しでも反映していきたいと思いますので、また、まだお時間、目いっぱいあるんで、少しでも気づいたこと等々があれば、ご意見いただければすごく参考になります。本当にありがとうございます。

○会長

ありがとうございます。

それでは、まだお時間ありますので、もしご自由にご発言されたい方いらっしゃったら。

○区

先ほど資料2番で幾つかご質問いただいた中で、外国人が含まれるのかというようなご質問をいただいたと思いますが、資料2番の4ページ、図表の11番で、転入者の住所別割合というものがございます。これに関しましては、図表11と図表12に関しては日本人のみの動きというようになっております。ですので、15歳から19歳とか20歳から24歳のところで、非常に1都3県以外からの転入等が多いというところでは、推測にはなりますけども、進学や就職等のタイミングで転入をしてきている方というのが多いのではないかなというように見込んでおります。こちらの図表なんですけども、これまでの会議の中でもご質問いただいていたことがあったと思いますので、外国人含まずといったような表記などを入れるように工夫をさせていただきたいと思えます。失礼いたしました。以上です。

○会長

よろしいですか。

改めまして、もしご意見あればご自由にご発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

○委員

先ほど来、国の総合戦略の転換点のところと北区が置かれている現状は違うと思うので、そこはあんまり大きく気にし過ぎないほうがいいというふうなお話があって、私もそうだと思います。ただ、幾つか転換点となった中で、取り入れてもいいのではないかなと思う観点が、私もこの内閣の別のほうの委員をやっていたりする関係でお伝えできたらなと思って、ちょっと別観点でお話をします。それは何かというと、関係人口のお話ですね。ぱっと聞くと関係人口というのはもう少し東京から離れたところのお話かなとお思いかもしれませんが、やはり関係人口から実際に住んでいきたいと思う気持ちが生

まれるという因果関係はありますし、実際に住んでもらうかどうかは別としても、どれだけの人たちに北区にタッチしていただくかという機会を増やすということは、極めて重要なことだと思います。

じゃあ、どうやったら関係人口が増えていくんでしょうということなんです。一つは多分観光というお話があるかと思うのですが、あまり北区の特性を考えていくと、そんなに観光ということで関係人口を増やすということだけが北区の打ち手ではないような気がしています。では、じゃあ、北区ならではの関係人口増加策って一体何だろうというものを考えていったときに、私自身がちょっと思うことが、やはり教育にうまく絡めるとおもしろいのかなと。子育てとうまく絡めるとおもしろいかなと思っています。例えばですが、最近よくあるマンション事業者さんとの取組みで、アイデアフルなマンション事業者さんがよく話しているのは、北区もそうですけど、土地が限られているじゃないですか。地価が上がったりとか賃料が上がっちゃったりして、2人目、3人目を抱えようとしたときに、広い住宅が手に入らないという話はよくあります。だけど、それはもうしょうがないです。じゃあ、行政が2人目、3人目を産んだお宅だけ広い住宅をただあげますみたいなことまでは多分できないと思うのです。

じゃあ、どうしたらいいかということと今の関係人口の話の解き方として、一つはいわゆる田舎、例えばですけど、群馬県だったり栃木県だったりどこでもいいんですけど、どこかにマンションごとで管理組合が田んぼを持っていたりするんです。そこにみんなでバスに乗って田植えをしに行ったりとか、畑に物を植えに行ったりとか、あるいはそこでの地域のお祭りに参加したりとか、そっちは逆に言うと地域のほうは若い人たちがなかなかいないということで、ウエルカムですみたいな感じ。今度は逆にそこで生まれてとれたお野菜とかお米とかをもとに、今度は自分たちここだったら、北区とかに戻ってきて、そこでその特産品とかをフェスタみたいなところで売ったりとかというふうな形でやっているというのがあるんです。

私としては、地方からしてみたら、田舎からしてみたら、やはり都会の若い人たちに来てもらいたいという思いがあるというのはものすごく切実で、僕はうまい関係人口の使い方としては、土地もないし子育てをゆっくりさせてあげる環境をつくるというのはなかなか行政として難しいということであれば、別に北区の中の資源だけをそれに活用するのではなくて、もう少し大きな目で2拠点目、3拠点目みたいなところとの連携で、限られた面積の北区ではあるけれども、実は実面積の倍ぐらい子育て楽しめる場所があるんですよみたいな形でのメッセージは、こういう自治体ならではの特色としてあるのかなと思っています。

特に北の玄関口というキーワードがすごく私、気になっていまして、大宮も同じような戦略をとろうとしているんですが、やはり東北に向かうとか信州に向かうとかというときに、赤羽、大宮みたいなところって非常にターミナルとしてわかりやすいという立地特性がありまして、そういったところで、うまくその方面と面積が限られているところをうまく拡大しながら、新しい子育て戦略みたいなものとかが打ち出していけるととてもおもしろいかなというふうに思っていますというのが一つ。

あともう一つ、これはたまたま完全に私の話ですが、うちの次男が今島根の県立高校に行っています。なぜ行ったのかというと、地域の方々と一緒に活動ができるから行

ったんですね。それは非常に島根県というのは人口の減少が激しく、何と受験倍率0.9倍ですので、県立高校が埋まらないというレベルです。ちょうどこの資料5-1の11ページで島根の例が出ていたのでおもしろいなと思って、これも教育の新しいヒントだと思うのですが、11ページの魅力ある教育環境を求めて全国・海外から地域留学・教育移住というところで、島前高校の生徒数の推移というのが出ています。息子が行っているのはこの高校、隠岐島前高校ではない高校なんですけれども、似たような取り組みをしまして、ここでやっている非常にいい取り組みだなと思う一つに、ブリコラージュゼミというのがあるんです。何かというと、学校の授業の中に地域の方々が生徒となっていて授業が48授業、一応事前に告知されて、いわゆる総合学習の時間を使って、それをやるんです。例えばさっき北区のほうで外国人が非常に増えているという話があって、外国人の方々、インド人の方でも中国の方でもいいと思うんですけど、でも、なかなか本当の中国を知る機会とかがなくてなかつたりするよねというときに、じゃあ、実際、あなたの生まれた中国ってどんな中国か教えてくださいみたいな授業を展開してくださいってお願いをして、そこに対して小学生、中学生が参加していくみたいな、つまり何か新しく再開発とかで教育で新しい学校をつくったりということではなくて、教育の中身で地域の方々の例えば商売やっている方にその商売の例えばおまんじゅうのつくり方講座でも何でもいいんですけど、そういった形でたくさんの講座をつくっているんですね。それが要は将来の子どもの職業選択の幅を広げるという意味において、非常に受けがよくて、本人、うちの息子もいろいろなゼミをとっていて、楽しい楽しいと言っているんですが、いろんな仕事のきっかけをそのゼミで見出すことができ、それが今話題になって、今年つい先週、私、行って来たんですけど、最多の学校訪問数というか、オープンスクールの参加者数になったみたいな話がありました。それはやっぱりNHKに取り上げられたりとかメディア効果もあるんですけど、そういったやはり教育の部分の多様化とか新しい仕組みというのがたくさん出てきているので、ぜひ子育てというふうな施策でやるときに、今はどちらかというと保育の部分が多分中心となった施策が多いのかなというふうに思いますけれども、もう少し地方で言うと子育ての中でも教育のほうですね、どうやったら子どもの将来、生き抜ける、食える大人になるような教育ができるかみたいなところに取り組んでるところが割と今勝っているというか、子どもの信頼と親の信頼とっていつているというところもあるので、そんなものもあるのかなということで、以上でございます。

○会長

ありがとうございます。

委員、お願いします。

○委員

今のお話でいろいろ思い浮かんだこととお話しさせていただきますと、ほかの会議でも北区は農地がゼロという話が前に何回か出たことがありまして、お隣の板橋区、練馬区はとても農業が盛んで、最近特に観光農園が増えていて、素人の人が畑をやりたい、土をいじりたいというのが最近とても増えているので、普通に農作物をつくるよりも、

観光農園にしたほうがもうかるよなんて農家の方がおっしゃってたりもするくらいで、今お話にあった遠くへ行って、週末ちょっと畑をとかってすごくいい話だなと、ぜひやってほしいと思っています。今、北区では群馬の甘楽と提携してやっていますけれども、どうしても甘楽、お野菜はとてもおいしいんですけど、もちろん甘楽もとてもいいところなんですけれども、例えば企業とかがまたそういった場所をたくさんつくっていっぱい参加できる機会があると、子どもたちの食育とか教育にもとてもいいのではないかなと思いました。

それから、教育の件ですけれども、こちらやはりオリンピックに向けていろんな外国のことを知りましょうということで、給食にいろんな外国のメニューが出たりとかしていますけれども、やはり北区に外国人の方が増えてきていて、コンビニ行くと必ず1人や2人は外国の店員さんがいらっしゃる。でも、どこの国の人かわからないというので、どこか地方のコンビニに、外国の方の紹介のパネルをコンビニの中につくって、この人はネパールの人です、この人はパキスタンの人です。食べ物は何が好きですということをやっているコンビニがあるってニュースで出ていまして、このように、本当に身近なところで、どんなところに住んでいて、何を食べていてというのをもっと地域で知ることができる何かイベントとかできたらいいかなと思います。

ただ、一方で、私は保育現場にいまして、本当に外国の子に苦勞をしていることが毎日のようにありまして、中でも今、特別支援の外国人のお子さんがとても増えているんですね。言葉が通じないというハンディだけではなく、宗教も異なって、例えば食べ物も一切食べられない、なおかつ特別支援で障害を持っていて、その障害に対する考え方も国によって全然、神様からの宝物と受け取っている保護者の方には、どうしても協力を得づらいつつ、小学校の特別支援学級とかに行ってみても、そういう子が増えている、実際に日本人の子が手薄になってしまうという現場の話も聞いたりしますので、締め出すのではないんですけども、もっと外国の子がこれだけ急に増えている中で、英語が通じない子がとても増えているので、現場ではスマホで翻訳をして見せたりとか、四苦八苦やっているんですけど、やはり細かいところは通じないので、普通の教室ももちろんなんですけれども、そういったところもさらなる対応が必要かなというのを日々感じています。以上です。

○会長

ありがとうございました。

○委員

総合戦略は極論から言うと、マイナスをゼロにするものと新たな上増しをつくるものとして、大きく分けると2つあるんじゃないかなと思っています。例えばマイナスをというところでは、学童の定員数であるとか待機児童の問題を、マイナスな部分をいかにゼロにしていくかというお話と、新たに上増しをつくるという部分に関しては、例えば創業者数を増やすというお話もそうでしょうし、あとは健康寿命の割合を高めていくとかというところがあると思うのですが、マイナスをゼロにするというのは、やっ

ぱり基本的にやらないといけないってマストなことだとは思いますが、上増しをつくるというところがむしろ北区としてどこに濃淡つくるのかというところにつながってくるんだらうと思っています。例えばその一つが、先ほどのお話でいくと外国人の方々を増やすという方向に行くのか、そうではない方向に行くのか、そういった部分も含めて、そこがある意味、北区らしい総合戦略の上増しとしてどこに濃淡つけるのかという議論が、いわゆる北区版の総合戦略の目標につながっていくんじゃないかなというふうに思っています。

あと、もう1点が、いわゆるこれは北区としての目標という考え方ではなくて、区として民間の委員を含めて目標を立てるという中での意見を受けるというのがまさにこの会議だと思っているんですが、先ほどの委員のほうからの意見がありましたように、例えばパートナーシップであるとか、あとは協働という話でいくと、マイナスをゼロにするためにどうやって民間の人たちに何を担ってもらうのかということが多分明確にしたり、新たな上増しをつくる際に、区としてこの委員会としてはこういった濃淡をつける。この上増しをつくる際に、誰にどういう部分を担っていただくのかということをし少し明確に投げかけていく中で、区で抱え込むのではなくて、やはりある意味、民間の人たちにどこの部分を補ってもらうのか、担ってもらうのかって投げかけの意味合いも大きいんじゃないかなと思っています。それがあある意味、先ほどのシティープロモーションの意味合いにも多分つながっていくのではないかなというふうに思いますので、そういう視点の中で多分議論を少し整理していくと、むしろこの会議で出てきた数字のどこの部分を誰に担ってもらうのかということも明確に伝えやすくなっていくのではないかなという感じがしました。

もう1点、先ほどの委員長のおっしゃられたSDGsなんですが、何かこの項目にSDGsを一文入れるということよりは、すごくシンプルに言うと、資料4-3のところの具体的な施策というのを、むしろSDGsに置きかえてしまうという作業にしてしまうのも一案じゃないかなと思っています。というのは、ご存じのように、SDGsはあくまで目標なので、じゃあ、その目標を達成するために何やるのかということをし落とし込んでいったほうが、多分そのSDGsという言葉自体をもう少し、17項目それぞれ何をやってくのかというのが、むしろ具体的な施策の中身に置きかえてしまうと、もしかしたら項目の中で足りないものが見えてきたりとか、ないしはかなりウエイトの高いテーマというものがかなり偏っているかもしれないんですが、そういった形で少しSDGsに置きかえた場合に、北区の総合戦略の具体的な施策がどういうふうに振り分けられるのかということに置きかえてしまう。多分これそんなに難しくないの、多分その形で溶け込ませていくのが一番何か僕なりにはしっくりくるんじゃないかなというので、一つのご提案ではございます。以上です。

○会長

ありがとうございました。

ほかにどなたかいらっしゃいますでしょうか。

委員、お願いします。

○委員

先ほど委員がおっしゃっていた息子さんの行かれている高校のまちの方々が先生になるというもので、北区の産業振興課さんのほうでやっていらっしゃるまちゼミというのもあります。あれに今年初めてエントリーさせていただいて、今募集開始したところなんですけれども、もう開始その日に電話が鳴りやまないみたいな、かなり世の中の方々が関心を持って、今児童館とかいろんなところにチラシを置かれていらっしゃったからかなとも思うのですけれども、うちのようなところにもひっきりなしに電話が来るような状態だったので、区民の方々のそういったいろんな個店、商店街のお店さんたちがなかなか生き残るのが大変であると。そういう中で、ファンをつくるというのがまず第一の目的だとおっしゃっていましたが、お店に来てくれる、人に会いに来るところで、どんどんつながりをつくっていきたいということから始まったまちゼミらしいんですけれども、なかなかニーズがあるんだなど。参加している方々、お店さんも大体1回出たところはリピートをされていたりなんかもするので、うまくそれをさっきおっしゃられていたようなわくわくとか学童とかのほうに取り込んでいけたりだとか、横の連携とかができたら、子どもたちの職業意識の向上にもなるかもしれないですし、あとそういう個店のいいところはお年寄りとかでも現役でお店をやれるということころかもしれないので、そういう高齢者、シニアの方々の就労、働く場であったり、活性化される場もつくれるのかなと思って、北区でそのところももう少し推していいのかなというのを感じました。

あと、資料5-1の12ページで、出生率に影響を及ぼす諸要因と対策という左側のページ、未婚率とか初婚率の年齢から結婚への意欲、機会の減少という枠があると思うのですけれども、私も何かの勉強会に行ったときに、2015年の段階で成人男性の方の生涯未婚率というのが23%であって、さらにそれが増えていて、機会が恵まれないですとか、働き方改革、長時間労働の是正ということも書いてありますけれども、そこではない部分の切り口の人口増加の部分も非常に大事なんじゃないかなと思って、そこも書き加えてもよろしいのではないかと思った次第です。

あと、保育の関係で言えば、土日に保育してくれるところが少なくって困っているというお声をよく聞きます。これだけサービス業であったり、多様化している仕事の種類を保護者の方々がやられていて、土日の預け先がなくて困っているというようなお声も伺いますので、子育てに力を入れてくということでしたら、そのところの力を入れると一つエッジがきいてくるのかなと思った次第です。ありがとうございます。

○会長

ありがとうございました。

時間もそろそろ近づいてきたので、あとお一方はご意見いただけると思います。どなたかいらっしゃいますか。

最後に委員、お願いします。

○委員

部長、ご発言で感想とは言われましたけど、非常に重く受けとめました。ただ、外国

人に関して、難しいから投げ出すというわけではないですよ。

○区

取組みを一番考えているんですけども、何かなかなかこれだというのがないという感じですか。

○委員

明記するのがどうかは別として、常に考えなきゃいけない課題だということで、北区がトップランナーで走れば本当に日本全国にとって素晴らしいことだと思いますので、投げ出したわけじゃないというふうにとめてよいでしょうか。

○区

もちろんです。

○会長

どうもありがとうございました。このあたりで本日の議事を終えたいと思いますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

最後に、その他について事務局よりご説明をお願いいたします。

○区

本当に活発なご意見、ありがとうございました。

外国人のことを人口ビジョンの中に何かというようにお話、会長からもいただきましたし、委員からも今お話がありました。当時、平成27年度にこの北区人口ビジョンも検討委員会の中でさまざま議論をし、策定をしたという経緯がございますが、そのときに外国人のことをどうしようかというように問題提起も確かにありました。ただ、この当時になかなかどこまで踏み込むかというのが難しいというような状況があつて、宿題になっていたというようなこともあります。ただ、これだけすごい勢いで外国人の方が増えているというような現状等も見ますと、今後、考えていかなくてはいけない大きな課題だなというような受けとめを今日も改めてしたところです。また、皆様方のお知恵をお借りしながら何かいい策が打っていけるといいかなというふうに思ったところです。ありがとうございます。

それと、本日、さまざまご質問いただきまして、十分ご説明やデータの提供ができなかったこと大変申し訳ありませんでした。23区の外国人の増加率を始め、いただいたご意見やご指摘の中で提供できるデータもあるかと思っておりますので、少しお時間をいただいて整理をさせていただき、郵送等でお送りさせていただきたいと思っております。

委員からお話あった被災地からの人口の移動の状況などにつきましても、出ているものがありますので、そこは送らせていただこうとは思いますが、2011年以降、岩手、宮城、福島の転出の動向を見ているデータがありまして、岩手県は2011年以降、ず

つと転出超過で、宮城県に関しましては、2011年は一旦転出超過になっていて、その後、少し落ちついてきてはいるものの、また2015年あたりから転出超過になっています。また、福島県に関しましても、ずっと震災以降も転出超過の状態が続いているというような状況があります。この方たちがどこに行っているのかというのは、もう少し追ってみないとわからないところもありますけれども、こういったデータ等も提供させていただければと思っております。

それでは、その他ということでございます。今年度の2回目の会議につきましては、年明けの1月中旬か下旬を予定しております。本日、説明の中でも申し上げましたが、次回は北区版総合戦略の改定版の案といったものをお示しさせていただきまして、さまざまご意見をいただければと考えておりますので、よろしくお願いたします。日程につきましては、早目に決めさせていただきまして、改めてご連絡をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。以上です。

○会長

はい、どうもありがとうございました。

それでは、以上で第1回推進会議を閉会します。どうもありがとうございました。